

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全員で確認して、住み慣れた地域で安心した暮らしや関係性の継続を支える為の柔軟な支援を理念の柱に行っている。”昔ながらの家屋で高齢者とともに生活する”	○	理念の中には、地域という言葉が入っていないので、前回は指摘があったが、今回も同じ評価であるようなら検討したい(前回と評価事業所は異なる)
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目のつくところに掲示しており、理念に基づき、管理者や職員は利用者と家族のような関係を持てるように、また、地域の方とも良好に関係が保てるように日々取り組んでいる。ミーティングやカンファレンスなどの機会や日々の中で話し合い、共有している。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の場であったり、情報誌を媒体として地域の方に手配りして発信したり、日々の散歩や買い物等で自然に受け入れてもらえるよう日々努力している。	○	認知症の講座・相談拠点を手段の一つとして、より多くの方に理解してもらえよう努力していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行きかう人や近所の方等、挨拶や会話を日常的に持っており、避難訓練時にはご近所さんも参加して下さっている。普通のお付き合いをしている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣保班に入っており、地域活動の側溝掃除やお祭りにも参加している。また、地域の催し物にも積極的に出掛けており、ご近所の付き合いを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	推進会議にて話し合いを持ちながら、介護相談日を設定し、情報誌にて案内したり、地域に向けて認知症の講座を開いたりしている。また、情報誌配布時には、一人暮らしの方には声をかけたりして安否確認を心掛けている。		今後も、介護相談や認知症についての啓発活動を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員が理解し、自己評価を実施している。外部評価の結果も会議の場で報告をし、話し合いの場を持つようにしている。	○	前回の外部評価の結果を元に話し合いで留まり改善まで発展しなかったので今回は、取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行っている。そして、その内容を、事業所の会議にて内容を報告し、必要に応じて話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて行き来しているのと同時に、電話等も行っている。また、認知症サポーター講座を開くにあたり、市の方にも協力してもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は積極的に学ぶ機会を持ったりしていたが、職員は特に持っていない。成年後見制度を利用されている方はおり、権利擁護事業に関しては、過去に利用された方はいた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的には学んではいない。しかし、虐待に関しては見過ごされる事のないように注意を払っている。	○	高齢者虐待法について、資料をもとに具体的な勉強会を設け、より認識の高いものにしたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は特に行っていないが、管理者がそれを担っており、職員の段階に応じて、必要な研修等の機会は常に設けている。</p>	<p>○</p> <p>社内での勉強会が現在は中断されているので、今後計画的に行いたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は特に行っていないが、管理者がそれを担っており、連絡協議会の活動を通して、横のつながりを設けており、グループホーム間で、レベルアップ(交換)研修(現場研修)を行ったりして、交流の機会を設けている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者に対して、相談等にてストレスの軽減がはかられ、職員に対しては、管理者が担っており、仕事に対しても、其々の個性を活かしてもらうようにしたり、相談役になったりしている。また、定期的に親睦会を開いている。職員同士でも、和やかなムード作りもしている。</p>	<p>○</p> <p>更に、ストレス軽減に向けた取り組みが必要と思われる</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者に対しては把握し、職員に対しては管理者が把握しており、運営者に繋げている。しかし、運営者は労働条件等の処遇の改善が必要である。</p>	<p>○</p> <p>管理者・職員の処遇の改善に努める努力をしていく必要がある。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には必ず、家族の方だけではなく、本人にも会い、きちんとしたアセスメントを取り把握するようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には、家族の方ともきちんと話し合いの場を確保、種々の事柄を取得できるよう努めている。必要に応じて、こちらから家族の方への不安を聞き出せるような会話を意識して行い、努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、きちんと受け止め、その方の状況等を見極めながら支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り、入居前には本人も一緒に施設に来てもらって、見学がてら、少しの間でも皆さんと過ごす機会を設けたり、入居後も、新しい場所や他の入居者さんや職員とも馴染めるように努力している。居場所作りの工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	持ちつ持たれつの関係であるよう常に生活をしている。一方的な介護からは信頼関係も築きにくいものであり、理念である”共に生活をする”という事は、喜怒哀楽も共にするという事である。ややもすれば、一方的な介護に陥りやすかったりもするので、修正を繰り返しながら行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子等をきちんと伝えながら、職員だけではなく、家族の方とも一緒に過ごせる時間を出来るだけ持てるように協力をお願いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出の支援、種々の行事への参加、訪問等の機会を設けたり、一泊旅行や忘年会への参加を呼びかけ、コミュニケーションをはかり、お互いの関係を保てるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの訪問や電話等の支援を行ったりしている。また、馴染みの場所への外出の支援にも努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特に孤立しがちになりやすい方には、職員が間に入り、皆と関わりあえる様になっている。関わり合う事で、支えあう関係も築けてくる。しかし、相性もあるので、そこは注意しながらおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりが必要な利用者や家族には、情報誌を定期的に送ったりして、関係が途切れないようにしているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接的に聞き取るのは難しい方には、関わりの中から把握するように努め、ケアにつなげるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはアセスメントをしっかりと取り、情報の把握に努めている。入居後も、面会に来られた折に聞いたり、日々の会話の中より聞きだせることもある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の、その時の心身の状態によっても生活は変わってくるので、日常的なケアの中で行っているのと同様に、その方の出来る事を引き出せるよう総合的にも把握する努力をしている。日々の記録の中から、カンファレンス等でも話し合い、把握していつている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを実施しており、また、本人の関わりの中から課題(希望)を見つけ出し計画担当者本位の計画にならないよう、家族の方からは、要望や意見も聞いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っており、心身の状態等が変化した時など、必要に応じて計画のたて直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子を記録しており、心身の状態等、いつもと違った事があった折には、※にて、目に付くようにして、より職員が共有できるようにし、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	臨機応変に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域にあるホール(公園あり)の利用や、囲碁のボランティアさんに来所してもらったりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方の納得の上で、基本的には近くの協力病院を受診している(元々そこだった方が殆んど)が、そうでない方には、ご家族の協力の下、受診してもらっている。但し、緊急時等はその限りではない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	近くでの認知症の専門医の確保が必要と考える。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化、終末期についての方針を明確にして、全員で共有する必要がある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		情報交換はきちんと行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉掛けをしないよう、日常的に配慮はしているが、時として、そのような対応が目立つ事もある。そのような折には、職員に再認識してもらうようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一方的な言葉掛けにならないように配慮したり、言葉の理解の程度に合わせた対応や、言葉で表現できない方には、関係の中から読み取るように心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、その人らしい生活が出来るよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	それぞれ、その人らしい身だしなみやお洒落をしている。頭髮が長い方は長く。自分で洋服を選べる方は自分なりのお洒落をし、難しい方は、その方に合った色・形等を尊重している。理美容も、近くの床屋さんを利用したり、行きつけの理美容室に行ったり・とさまざまである。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、その方に合った力に応じて行っている。職員も一緒に食事を摂って、食事時間を長く取る事により、楽しい一時を過ごしている。片付け等も一緒にに行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食時の晩酌や、夕食後、後片付けを終えた時間に、その人に合ったアルコール等を出して談笑している。飲み物も、日常的に、嗜好に合わせていたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用しながら、その方の排泄パターンを知り、その方に合わせた誘導を行い、なるだけ、オムツにしない快適な生活が送れるように支援している。中には、手作りの尿漏れパットを使用し、快適にいられるような工夫もしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ゆったりと気持ちよく入れるように支援しており、その方のタイミングを見はからいながら行っている。基本的には、毎日入浴を行っており、夕食後に入る方もいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、なるべく外出し活動的に過ごしてもらい安眠につなげている。午後は、その人に合ったペースで休息される方もいる。就寝時間は、まちまちであるが、無理には就寝するようにはしない。しかし、体調を崩す事のないようには配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で、その方に合った役割の支援はしている。また、スポーツ観戦や外食等の個別的な支援を行い、その方の楽しみやストレスの解消につなげている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力量に応じて、お金を持ってもらっている方もいる。それで、買い物に出掛けたりしている方もいる。人数は少ないが		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前から午後にかけて、散歩は日常的に行っている。また、出入りは自由な為、一人で近道を散歩されている方もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スポーツ観戦や外食等の支援を個別に行ったり、月に一度は必ず全員で日帰り出掛け、ご家族にも協力を願う事もある。、一泊旅行も行っており、家族と利用者さん、職員との交流もはかっている。また、墓参りや外出・外泊等の支援も家族の協力の下、行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話したり手紙を書いたりする事は難しいが、電話の取次ぎをしたりして支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に訪問時間の制限はなく、いつでも訪問できるようにしていし、家族と一緒に昼食を摂ってもらい、ふれあいを大切にしている。また、気軽に来てもらえるような雰囲気作り(特に職員の態度や声かけ)も行っており、共有の場では、スペースを作るなどして配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や職員は理解しており、身体拘束も行っていない。しかし、ややもすれば、言葉や態度での拘束もあるので、日々のケアの中で目立つような事があれば、注意を促したり、共有の認識として会議等で話しをしたりしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けていなく開放的である。徘徊者はいるが、常に見守りや、言葉掛け、所在確認はしており、時には一緒に出掛けたりしている。一人で、出掛ける方もいるので、いつでも好きに出られるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一緒に生活しているので、常に所在は把握するよう努めている。記録等も、共有のスペースにて行い、夜間は、定期的と必要に応じて随時確認をしている。夜勤も、常に目が届き、すぐに対応できる場所で仕事をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物を周りに置かないのではなく、危険なものは手の届く所には置かないようにする配慮はしており、常に見守りを行いながら、危険を防ぐ取り組みはしている。また、包丁は片付ける場所が決まっており、使用しない時には、きちんと片付けたりと、その物によって管理の方法は違う。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その人に合わせた事故防止の取り組みを行っている。転倒の危険性のある方には、室内履きの検討や、声かけする事による段差等への認識、また、行方不明の可能性のある方には、日常的に所在確認らで入り口のベル等の設置・・・種々の防止に取り組んでいる。事故につながった時には、報告書作成と、原因・対策をあきらかにする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回、全員、消防署の行う普通救命講習に半日参加し、緊急時にも対応できるよう努力はしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域の方との協力の下、4月と10月の年2回、避難訓練・通報訓練・消化訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	当施設は鍵掛けを一切していない為、種々のリスクは考えられるが、ある程度の自由な暮らしを大切にする為にも、特に、入居時にはそれらの説明を行い、理解に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り等により、また、職員同士、日常的に情報を共有しあい、火顔色や表情等の観察を常に行っている。入浴時なども注意して介助し異変の早期発見に努めている。異変等があれば必要に応じて、バイタルチェックを行いながら、管理者への報告と指示、医療機関への速やかな受診も行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用途等が記載してある書類を個人の記録簿に整理し、職員が把握しやすいようにしている。また、薬の変更があった時には、申し送り等にて情報を共有し、記録にも記載したりしている。また、担当職員は特に、理解しておくこととなっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中はなるべく活発に身体を動かしてもらったり、飲み物の工夫や、食物繊維の多い食事作りや、朝食後のトイレへの支援等を行っている。また、排泄チェック表にて、その方の排便のリズムをつかみ、落ち着いた環境でのトイレへの支援も行っている(トイレ内で音楽を掛ける等)。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方に合わせた口腔ケアを行っている。声がけだけの人、介助が必要な人・・・介助方法はまちまちである。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はその方に応じた量にしており、まちまちであり、声かけ等を行いながら食べてもらったりしており、食事量のチェックもしている。水分も不足がちにならないように、食事時には継ぎ足しを行ったり、なかなか飲んでもらえない方には、好みの物を飲んでもらったりして工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	冬にはインフルエンザ予防接種を利用者さん、職員共に行っている。手洗いとうがいの徹底(職員も)も行い、感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は地元商店街を利用して、新鮮なものを購入している。まな板や布巾の除菌の徹底や食器乾燥機の使用もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は、古い家屋で、昔は地元の人たちが利用していた割烹料理屋さんだったので、馴染みやすい。玄関周りには、季節の花が植えられている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の家屋なので、採光等は決して明るいものではないが、それが利用されている方にとっては居心地の良いものと思われる。台所も居間とつながっており、自然に包丁の音や臭いが取り入れられている。古時計もあり生活観が溢れている。食堂の決して広くはないが、昔の大家族のような感じで食事も出来る。(デメリットとメリットに)		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二箇所ある畳の部屋がオープンになっており、一箇所は掘りごたつ、もう一箇所は足の高いコタツになっており、その他、台所もオープンになっているので、好きなところで過ごせる。また、廊下にはソファが置かれ、静かに過ごしたい方にも良い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が使用していたものを持ってきてもらうようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中はなるべく部屋や廊下等の窓を開け、空気の入れ替えをしている。温度調節は、冬は温風ヒーターや石油ストーブ、コタツで、夏は扇風機等なので、昔ながらの生活である。衣服での調節はこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりの設置をしており、段差の解消も必要な所は行っている。古い家なので、手すりの変わりに、柱や物等、どこでも手すり代わりにするものはあるので、全ての所に手すりはつけていない。また、ある程度の段差はそのまま残しており、階段には滑り止めを付けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状況に応じた環境整備を行っている。トイレの表示も、言葉を変えてみたり、字にとらわれずに表示してみたりして、必要に応じて工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭が殆んどなく狭いが、その中で、日向ぼっこやお茶がを飲んだり出来るようにしたり、庭掃除をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

”昔ながらの家屋で高齢者とともに生活をする”この理念に基づき、利用者と一緒に生活している私達も、生まれ育った家を思い出します。利用者もきっとそうでしょう。ホームが自分の家と思ってしまう利用者さんはその表れかもしれません。夏は暑く、冬は寒い！そんな中で毎日散歩に出掛け、季節感を味わい、散歩途中ですれ違う地域の方が気軽に挨拶をしてくださいます。小さな町だからかもしれませんが自然に囲まれて生き生きと生活されている利用者さんをみると、他にはない誇りが持てます。また、地域の方とは施設だからではなく、ごく一般のお付き合いをしており、隣組みに加入し、必要な行事の参加や冠婚葬祭の特に、葬祭の部分でもお手伝いしております。また、町の中心部に位置しているの、地元商店街の中にあり、食材の購入も利用者さんと一緒に歩いて注文してきたりしています。その為もあってか、徘徊者への対応も、時には協力体制が得られたりしています。毎月発行の情報の配布も、地域の方に一軒一軒訪問し認知症への理解も深められるよう努力しています。しかし、決して背伸びしたものにならないよう自然な形で種々の活動を行っています。毎年、盛大に行われる伝統ある夏祭りにも参加させていただき、楽しませていただいております。この、やさしい家は、上記にも記したように、古く、以前割烹料理屋さんだった所を改修しているので、本当に田舎を感じさせるものになっています。殆んどが畳で、居間には掘りごたつがあり落ち着ける環境でもあります。採光は決して明るくありませんが家で過ごしているような趣です。ハードの部分では使いづらい所はあるものの、それを職員たちが創意工夫しながら手作りで行っているのも特徴の一つでしょう。